

31 山下門内兵隊假病院について

黒澤嘉幸

明治元年、東京の山下門内に兵隊假病院が設けられた。この假病院に関しては、陸軍衛生制度史に次のように書かれている。

我陸軍病院ノ濫觴ニシテ陸軍衛生部ノ萌芽トミナスヘキモノハ明治元年十月一日山下門内ニ置カレタル兵隊假病院是ナリトス コレヨリ先 東北ノ戦乱ニ際シ諸藩兵隊ノ多クハ横濱ニ屯在セシヲ以テ同所野毛山ニ一ノ戦時病院アリシカ元年八月某日之ヲ閉鎖シ其ノ患者ヲ東京下谷和泉町旧藤堂邸ニ在シ鎮將府支配ノ病院ニ収容セリ十月十八日鎮將府廃セララルニ際シ該病院ハ一時東京府の支配ニ属シ 十月二十五日軍務官ノ所管ニ移リ 翌十一月十五日再ヒ東京府ノ管轄トナレリ 隨テ軍人庶民ト

モニ施療スルコトニナレルヲ以テ軍人患者ハ漸次陸軍ノ假病院へ移サルルニ至レリ（以下一部省略）

假病院ハ其ノ名ノ示スカ如ク一時姑息の設備ナルヲ以テ其ノ職制及業務ノ情況等一モ徴証スヘキ資料ヲ得ス依テ明治元年ヨリ同六年ニ至ル間ニ設ケラレタル假病院ノ開閉年月ノミヲ左に列擧セリ

一 明治元年十月一日山下門内ニ兵隊假病院ヲ置カレ同五年十月二十三日之ヲ陸軍第二假病院ト改稱シ 同六年一月十四日患者ヲ本病院ニ移シテ閉鎖ス

また、海軍衛生制度史もこの假病院のことを載せている。しかし、その内容は前述のものとはほとんど同じである。若干ことなる部分をあげると次のとおりである。

- 一 内部ノ設備等横濱病ト大差ナカリシモノノ如シ
- 二 明治三年六月二十五日高輪御天山水口藩邸ニ海軍病院ヲ置キ高輪海軍用所ノ所管トシ医務衛生ノ海軍ニ属スヘキモノヲ兵隊假病院ヨリ割キテ其ノ事務ヲ掌レリ
- 三 此ノ兵隊假病院ハ元年十一月二日設置

その外、飯島茂氏と佐伯理一郎氏の資料にこの病院のことが記述されているが、飯島氏の内容は陸軍衛生制度

史の範囲を出ない。佐伯氏は次のように記述している。

抑々明治初年に於ては、吾が海軍及陸軍の医務は両ながら兵部省の一所管に属し、明治元年十一月東京山下門内に設けられた兵隊假病院に本部が置かれていた。従つて海陸軍両部の傷病者は、総てこの病院に収容し治療していた。

山下門は江戸城の外堀にかかっている山下橋を渡り廊内に入るときの門で、数寄屋橋御門と幸橋御門の中間にあつた。現在は橋も門も存在していないが、その位置は帝国ホテルの裏側にあたる。

山下門内とは廓の内側ということになるので、今の内幸町一丁目、日比谷公園附近を指すものと考えられる。往時、和田倉門の兵部省を中心にこのあたりは軍施設が集まつていた。

以上の資料によれば、この假病院は陸海衛生の創設に何等かの役割りを果していたのではないかと思われるので、若干の考察を試みた。

(埼玉県所沢市)

32 長谷川泰と「脚氣病院」

唐 沢 信 安

東京府立「脚氣病院」についての研究は多くの先人達によつて今日迄論述されている。今回筆者は、東京都公文書館の記録を基にして、脚氣病院事務長であつた長谷川泰の活躍について述べることにする。

明治十一年七月八日、長谷川泰は脚氣病院事務長となり、当時明治天皇が苦しまれた脚氣病の研究の責任者として色々苦労している。この病院は天皇の命令で、脚氣の病理学的解明と治療法の発見が目的で始まつた。その内^{ないちよ}勅を大久保利通が受け、皇室より二万三千円の御下賜金があり、脚氣病院と癩^{くまひん}狂院(現在の松沢病院の源流)が造られたのである。その為に衛生局長の長与専齋は、洋方医、漢方医の代表者を選び、日本人に特に多い当時解